

「二宮町総合戦略」に係る アンケート調査結果

「二宮町総合戦略」に係るアンケート調査の結果

1) 調査目的

本アンケート調査は、本町の取り組みに対する町民の評価を把握する目的で実施するものです。

2) 調査方法

調査票は郵送で配布し、回収については郵送返信、又は e-KANAGAWA によるインターネット回答を実施しました。

3) 調査期間

令和6年9月6日(金)～令和6年9月25日(水)

4) 調査対象及び回収状況

対象者:1,000 名

令和6年6月1日現在の住民基本台帳から、満 18 歳以上の男女各世代(10 代・20 代、30 代、40 代、50 代、60 代、70 代以上)より、年代ごとに均等な人数となるよう 1,000 名を無作為抽出しました。

回収数:390 票(郵送:294 票、ネット:96 票)

地 域	今回調査結果		
	人 数	回収票	回収率
一 色	20 名	6 票	30.0 %
緑が丘	73 名	28 票	38.4 %
百合が丘	118 名	51 票	43.2 %
中 里	118 名	30 票	25.4 %
二 宮	284 名	108 票	38.0 %
富士見が丘	115 名	44 票	38.3 %
松 根	20 名	13 票	65.0 %
山 西	232 名	84 票	36.2 %
川 匂	20 名	5 票	25.0 %
未回答/不明	－	21 票	－
合 計	1,000 名	390 票	39.0 %

調査票不到達数:1名(理由:あて所に尋ねあたりなし)

〈内訳〉 70 代以上 1名(二宮)

※ 各集計の構成率については、項目ごとに四捨五入を行っているため、必ずしも合計が 100%にならない場合があります。

また、複数回答可としている設問については、選択肢ごとの回答数に対して回答人数を除して割合を算出しているため、合計すると 100%を超える結果となっています。

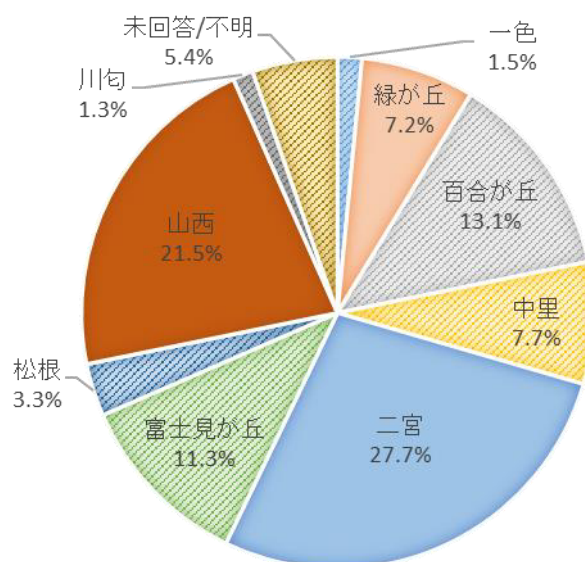
1. フェイスシート

回答者 390 名の属性は以下のとおりです。

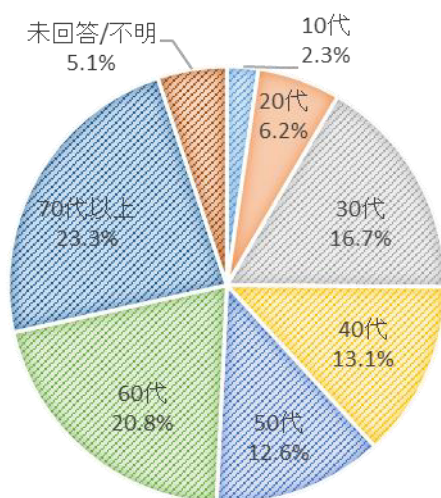
(1)居住地

居住地は、9の地区ごとに集計しており、各地区における詳細な構成は以下のとおりです。

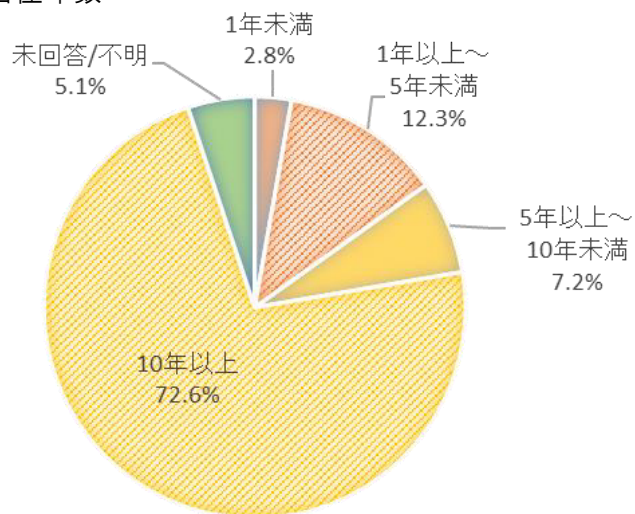
地 区	地区構成
一 色	一色
緑が丘	緑が丘
百合が丘	百合が丘1・2・3丁目
中 里	中里
二 宮	元町北・南、上町、中町、下町
富士見が丘	富士見が丘1・2・3丁目
松 根	松根
山 西	梅沢、越地、茶屋、釜野
川 勾	川勾



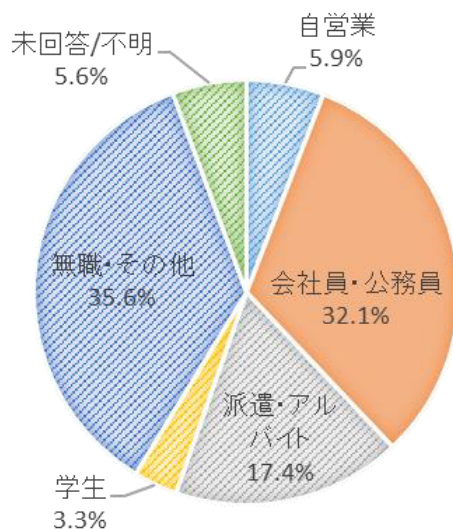
(2)年齢



(3)居住年数



(4)職業



2. 二宮町の町政運営

「第3次二宮町総合戦略(令和5年度～9年度)」の基本目標に関する内容について、「満足度」と「重要度」を次の5段階で評価を行っていただきました。(※点数化には「わからない」「未記入」を除く)

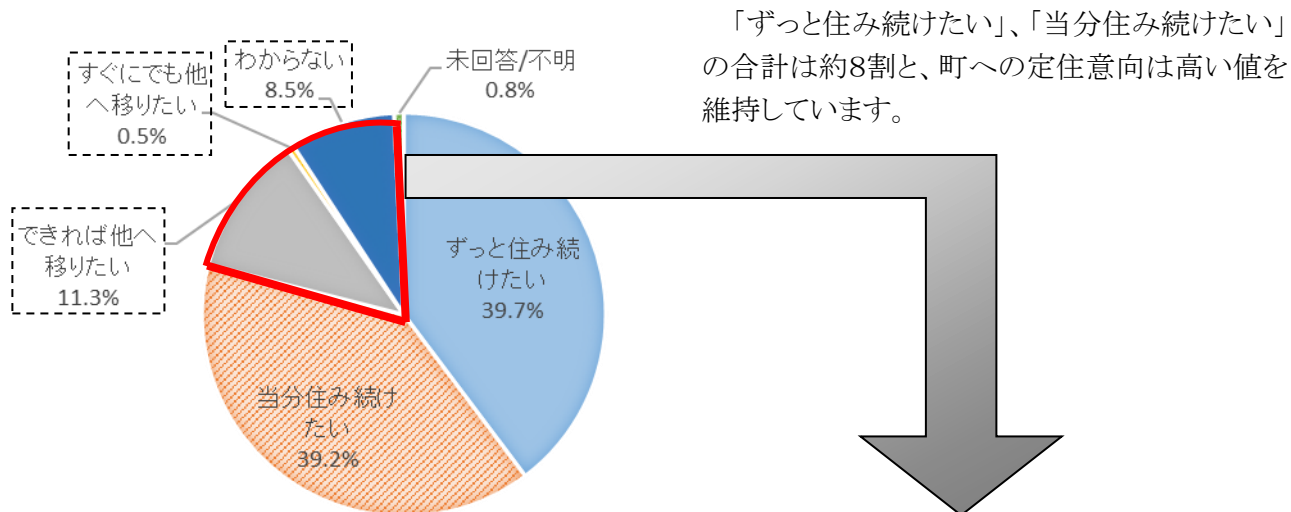
(点数化)	5	4	3	2	1
満足度	満足	やや満足	どちらとも言えない	やや不満	不満
重要度	重要	やや重要	どちらとも言えない	あまり重要ではない	重要ではない

◆「第3次二宮町総合戦略」の基本目標に関する施策の「重要度」と「満足度」

分野	番号	施策	満足度	重要度
総合戦略に設定した施策に係る事項	1	公共施設について (ラディアンや地域集会施設等の使いやすさ、充実度、整備状況 等)	3.37	4.18
	2	高齢者支援について (地域の通いの場、介護サービスの充実、相談・支援体制 等)	3.11	4.36
	3	障がい者支援について (障害福祉制度の利用助成、医療費給付、相談・支援体制 等)	2.98	4.38
	4	地域コミュニティについて (町民活動の育成・支援、地域再生事業、各地区への支援 等)	2.98	3.93
	5	環境保全と気候変動対策について (環境保全、緑化推進、美化活動、ごみ収集、ごみ減量化 等)	3.13	4.41
	6	行政サービスのデジタル化について (各種行政手続きのデジタル化、行政情報のデジタル配信 等)	2.86	3.86
	7	移住・定住の取り組みについて (シティープロモーション、観光振興事業、公園整備事業 等)	2.71	3.90
	8	特色ある教育について (英語教育、ICT教育の推進、小中一貫教育、コミュニティ・スクール 等)	2.69	4.03
	9	出産・子育て支援について (妊娠・出産、育児に係る相談・支援 等)	2.89	4.51
	10	仕事と子育ての両立について (保育園、学童、一時預かり事業、ファミリーサポートセンター事業 等)	2.94	4.50
	11	地域商工業について (起業支援、商店街活性化、二宮ブランド事業 等)	2.66	4.01
	12	地域農林業について (有害鳥獣対策、就農支援、特産物の普及 等)	2.78	3.87
その他事項	13	公共交通について (バス、タクシー、コミュニティバス 等)	2.59	4.35
	14	災害対策について (防災訓練、災害情報の発信、災害関連施策 等)	2.80	4.59

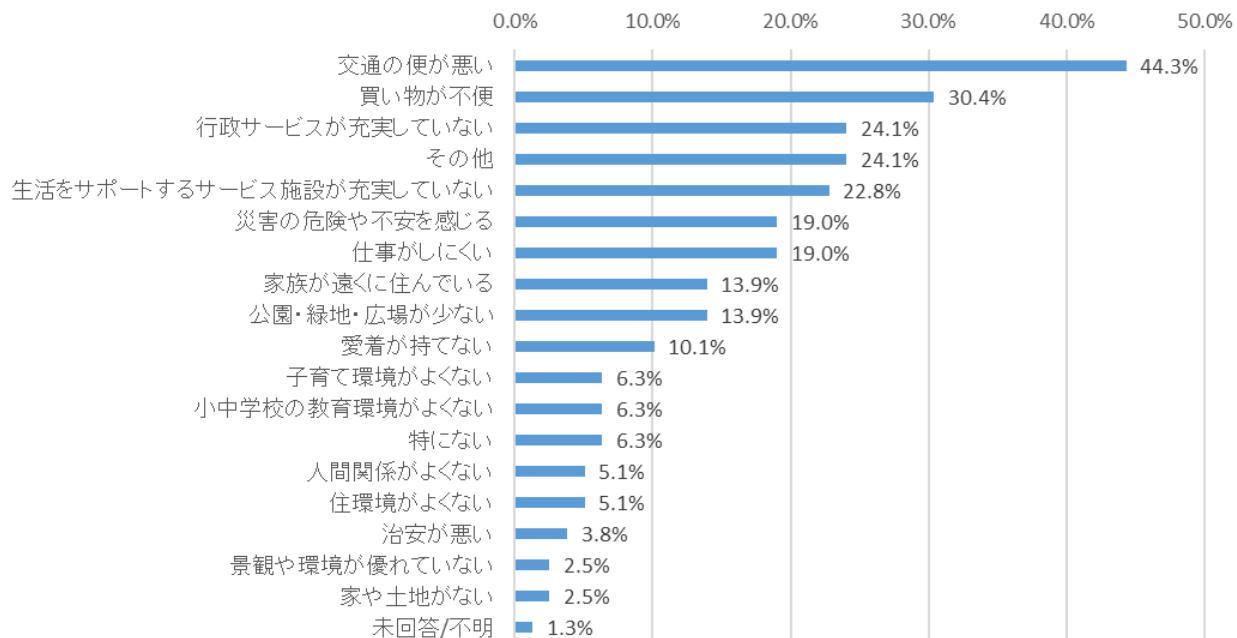
3. 二宮町への定住意向

問1. 町への定住意向



問2. 他へ移りたい理由 ※問1で「他へ移りたい」又は「わからない」と回答した人のみ

前問で他へ移りたいを選択した理由は下記のとおり割合となっており、特に「交通の便が悪い」や「買い物が不便」が多く、町内で買い物ができる場所の少なさや公共交通機関を使用する際に不便を感じているようです。また、「その他」の意見として、「将来、車に乘れなくなった時、何かと不便になる」、「職場が遠い」等が挙げられました。

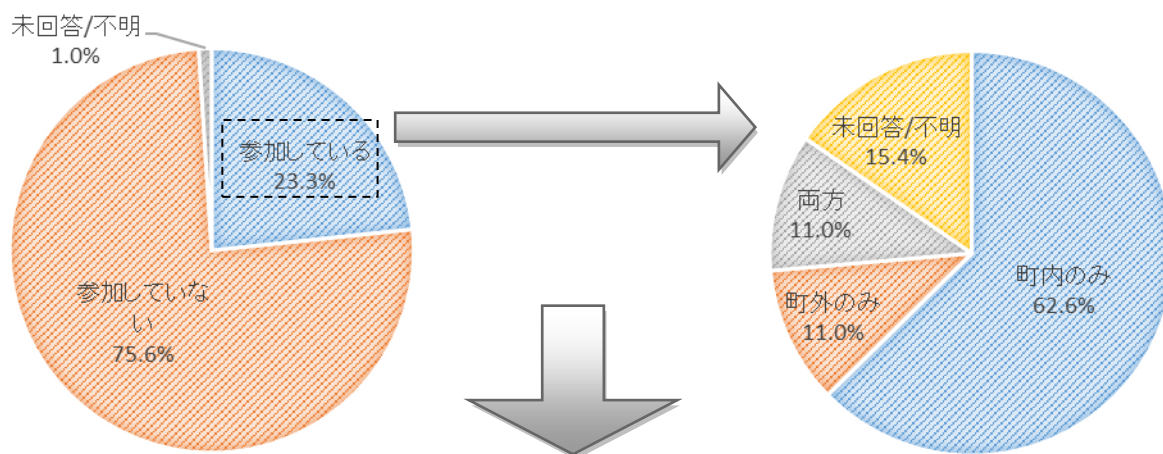


※「他へ移りたい」又は「わからない」とした 79 人に対する割合

4. 地域活動

問3. 地域活動やボランティア活動への参加の有無とその主な活動エリア

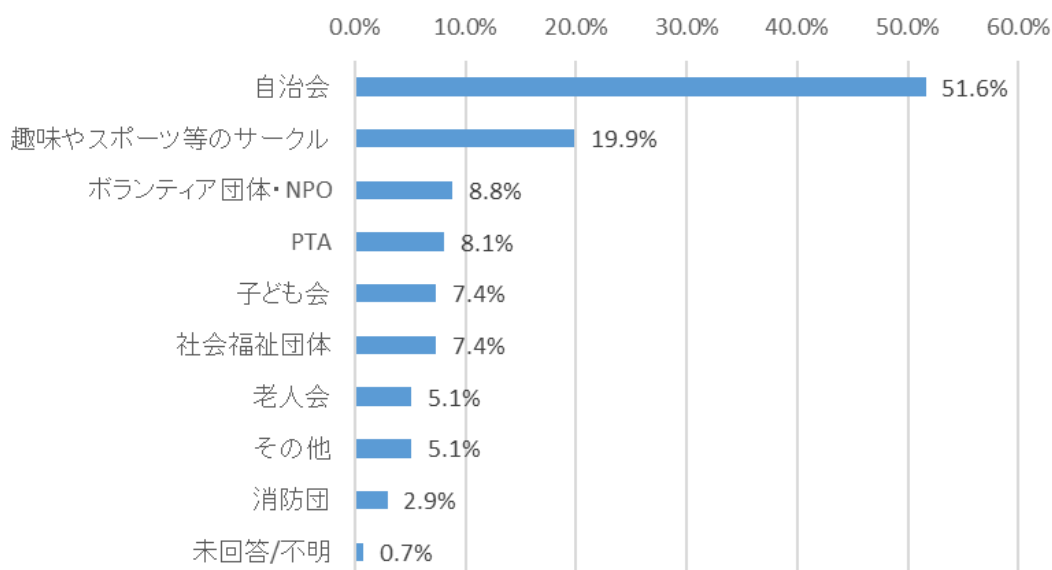
2～3割の人が地域活動やボランティア活動に参加しており、その活動場所として、「町内のみ」が半数以上を占めています。



問4. 地域活動やボランティア活動の内容

現在参加している人の活動内容として、半数以上の人「自治会活動」と回答しており、次に「趣味やスポーツなどのサークル活動」、「ボランティア団体・NPO」が続いています。

また、「その他」として「人権団体」、「囃子保存会」等の回答がありました。

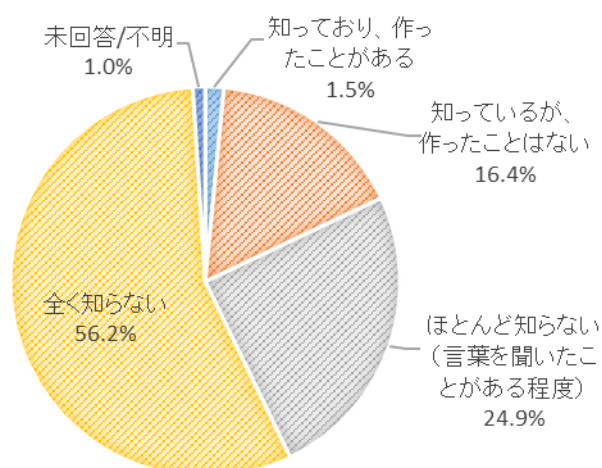


※「参加している」と回答した 91 人に対する割合

5. 防災

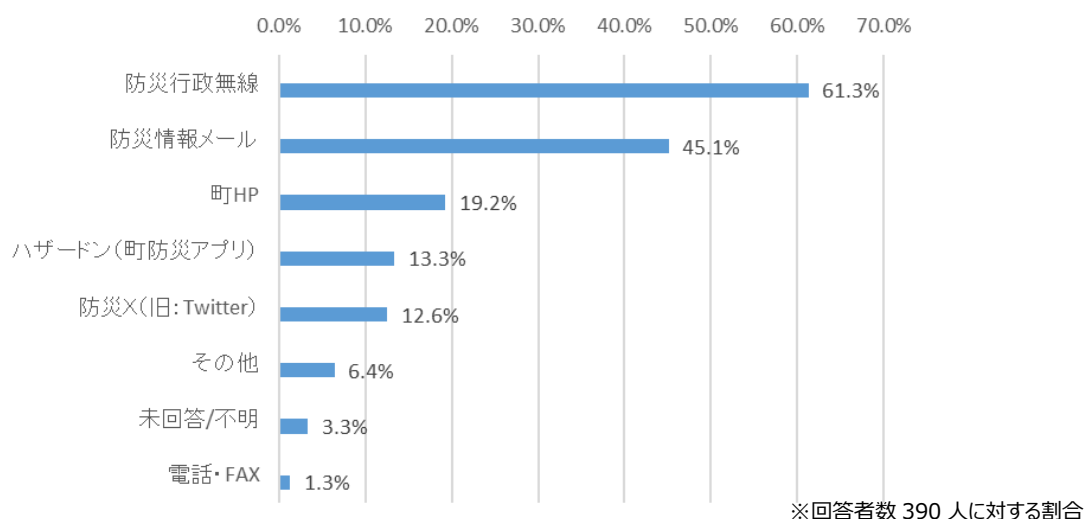
問5. 「マイタイムライン」の認知度

「知っている」は、2割程度に留まっており、認知度が低いことがうかがえます。また、「作ったことがある」は全体の1%しかおらず、周知状況に課題が見受けられます。



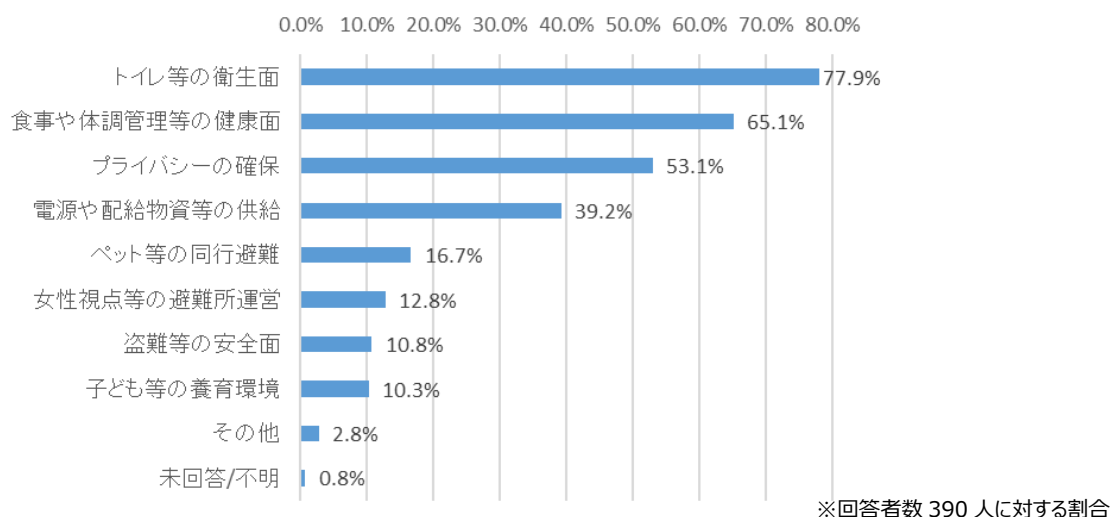
問6. 町の避難情報や災害情報の取得方法

「防災行政無線」が半数以上と最も多く、次に「防災情報メール」、「町HP」が続いています。



問7. 避難所で生活することになった際に心配なこと

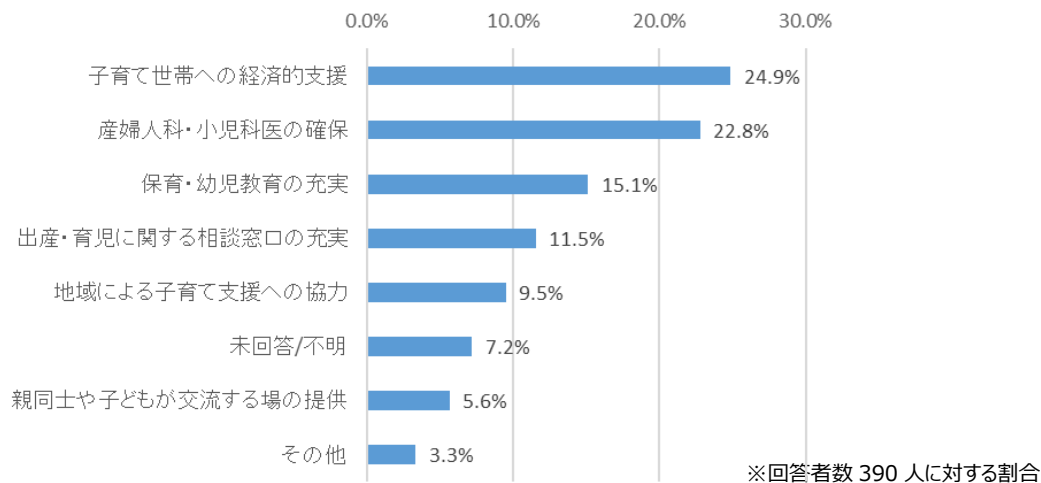
「トイレ等の衛生面」に関して心配されている人が約8割と最も多く、次いで「食事や健康面」と「プライバシーの確保」が続いています。



6. 福祉

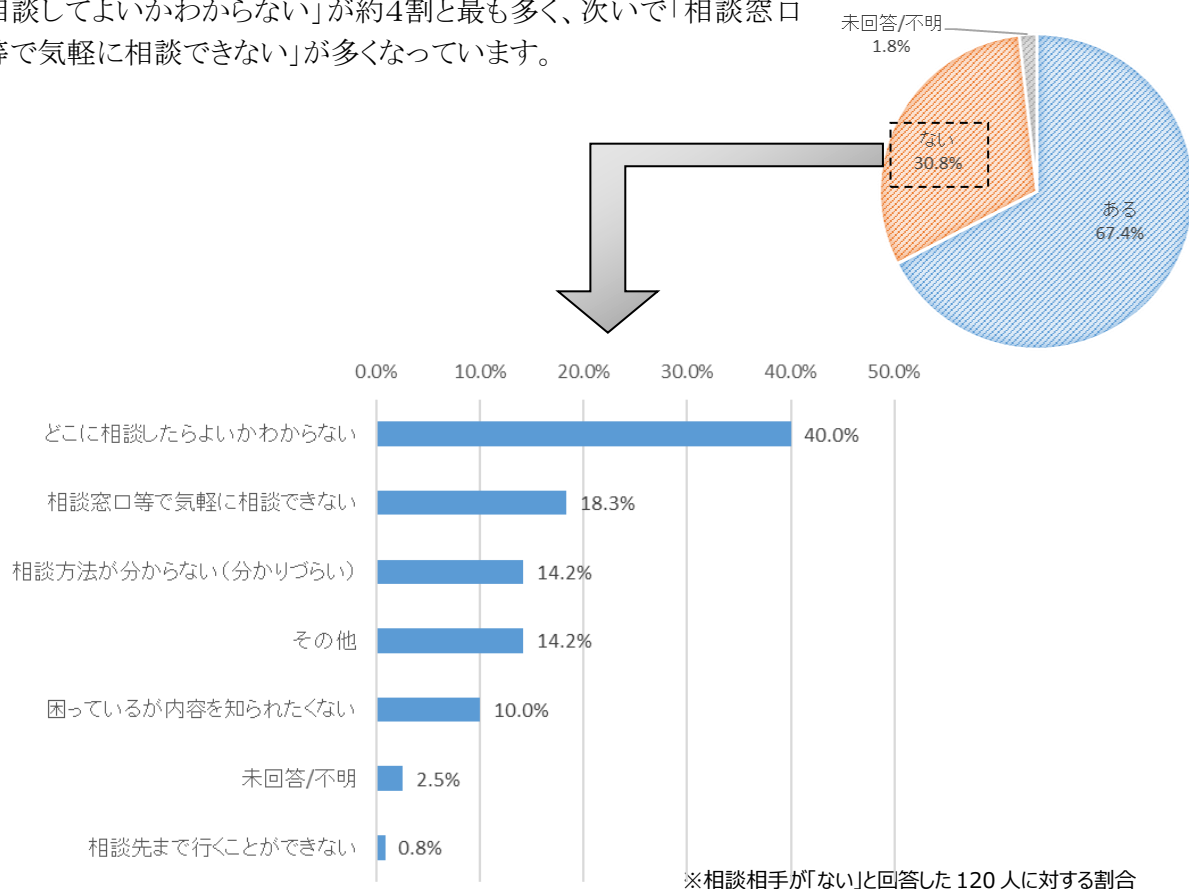
問8. 出産・育児・子育て支援のために重要な事項

「子育て世帯への経済的支援」が最も多く、次いで「産婦人科・小児科医の確保」が多く挙げられています。



問9・10. 家庭内の困りごとにおける相談相手の有無と相談相手が「ない」と回答した理由

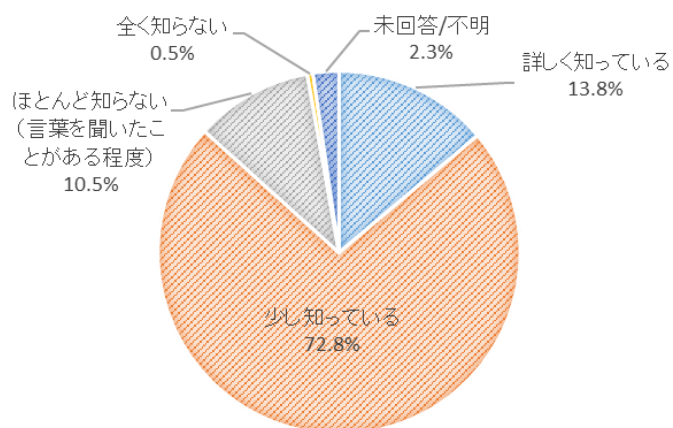
高齢者、障がいのある方、子どものこと等、家庭内の困りごとに関し、相談相手が「ない」は約3割となっており、その理由として「どこに相談してよいかわからない」が約4割と最も多く、次いで「相談窓口等で気軽に相談できない」が多くなっています。



7. 環境

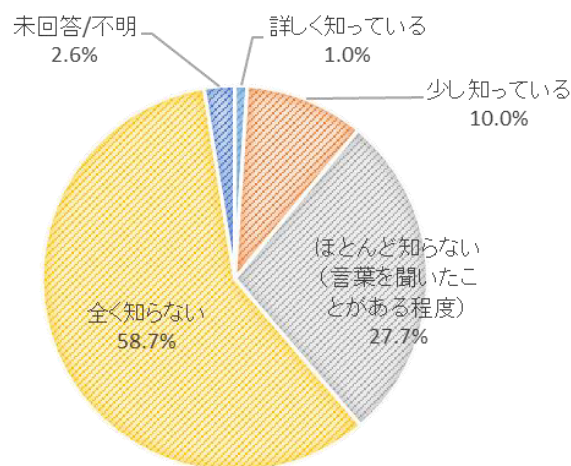
問 11. 「地球温暖化・気候変動」の認知度

「詳しく知っている」、「少し知っている」は8割を超えており、町民の関心は高い状況です。



問 12. にのみや気候市民会議の認知度

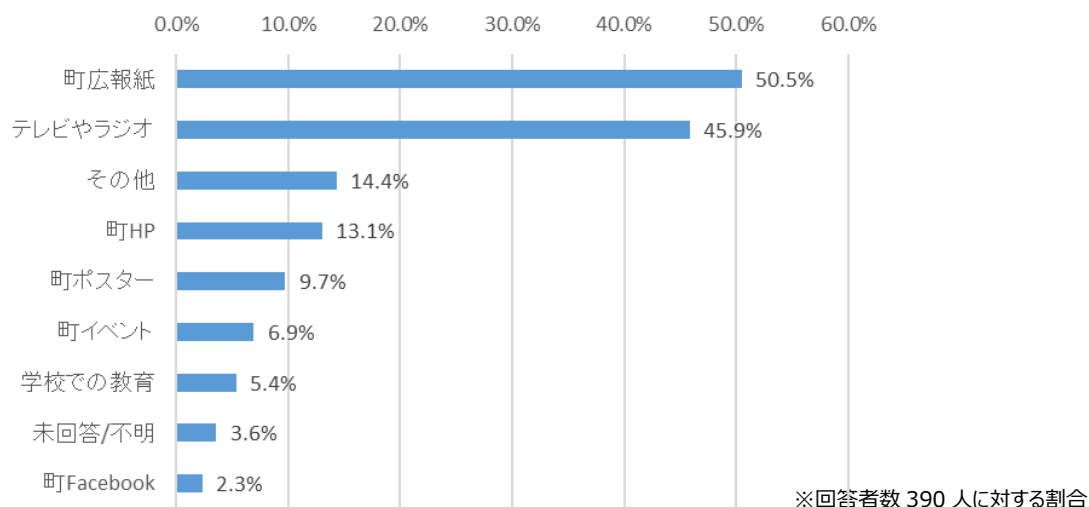
令和6年度に、町民・事業者・行政による「にのみや気候市民会議」が開催されていることを「知っている」は、約1割と非常に少なく、今後、開催結果をどのように生かし、また、周知をどのようにするかを検討が必要です。



問 13. 環境に関する情報の入手手段

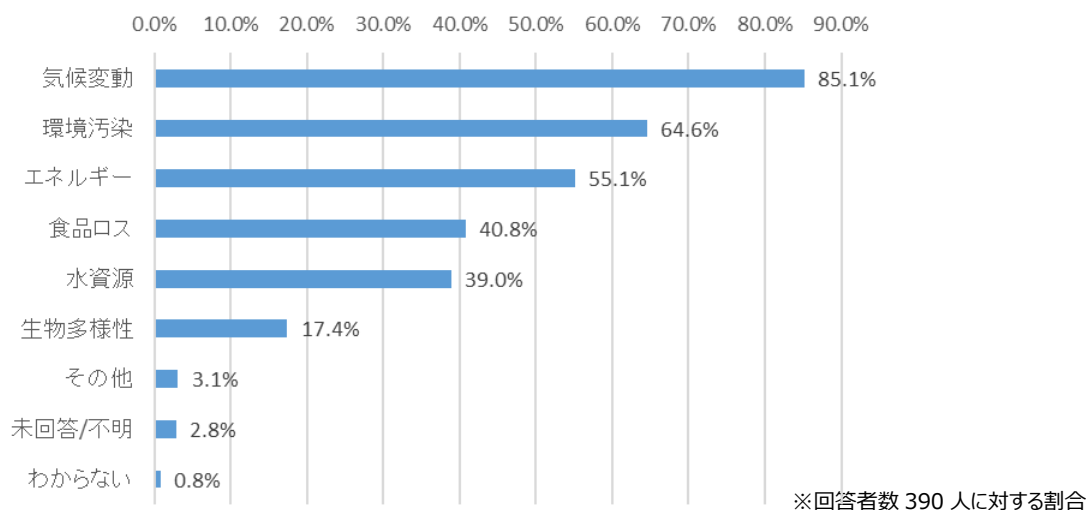
「町広報紙」が半数となっており、次いで、「テレビやラジオ」となっています。

なお、その他の例としては、「インターネット(SNS 含む)」、「新聞や書籍」といった回答がありました。



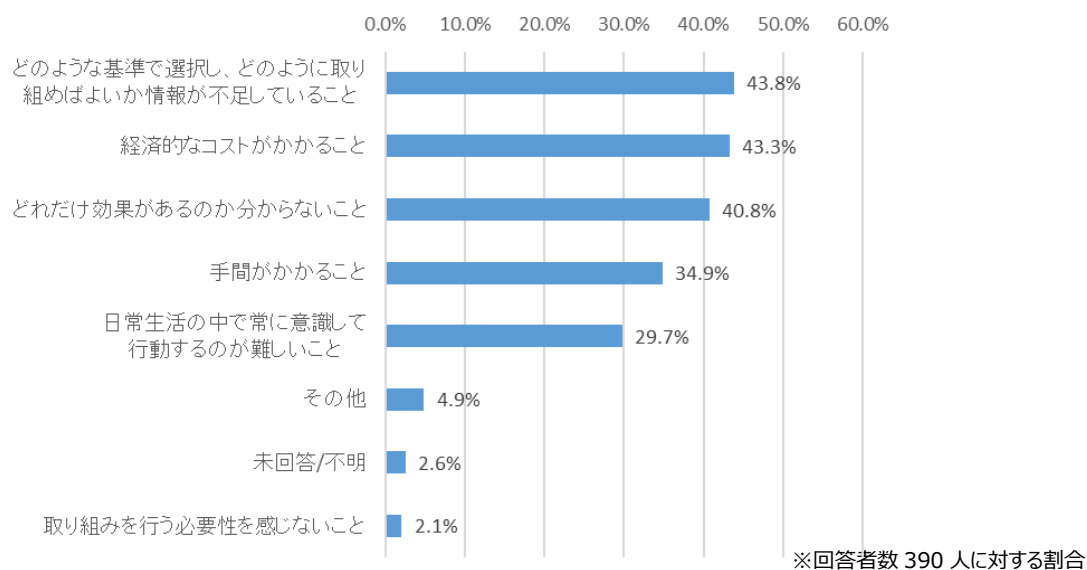
問 14. 環境問題を考える上で深刻だと思う事項

特に「気候変動」や「環境汚染」、「エネルギー」、などを深刻な課題であると考えている人が多いことがうかがえます。



問 15. 環境問題に配慮した取り組みを実践するにあたっての課題

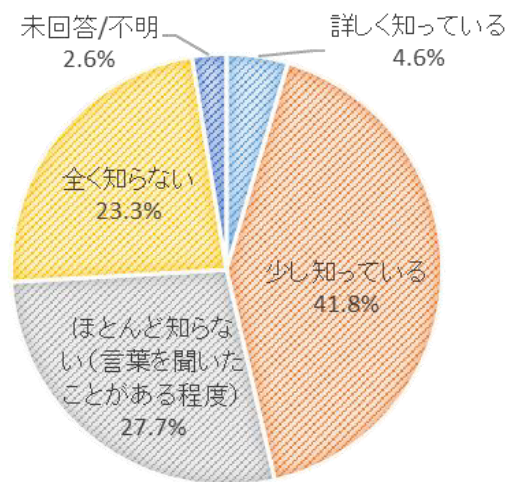
約4割の人が選択肢にあるほぼすべての内容を課題としていますが、特に取り組みについての情報不足や、コスト、効果、手間を挙げている人が多い結果となりました。



8. 教育

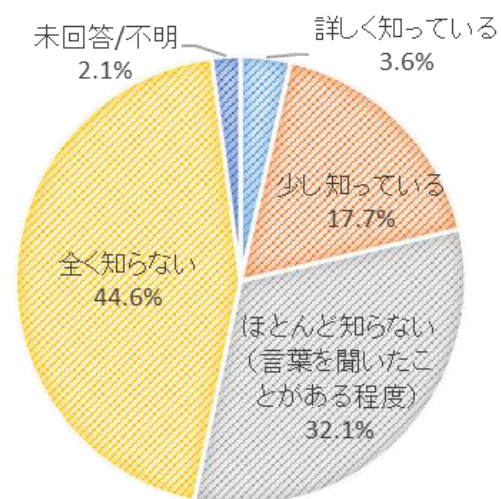
問 16. 小中一貫教育の認知度

「詳しく知っている」、「少し知っている」は4割半程となっており、半数が「ほとんど知らない」又は「全く知らない」ことから、現状、知らない人が多くなっています。



問 17. 「コミュニティ・スクール」(学校運営協議会制度)の認知度

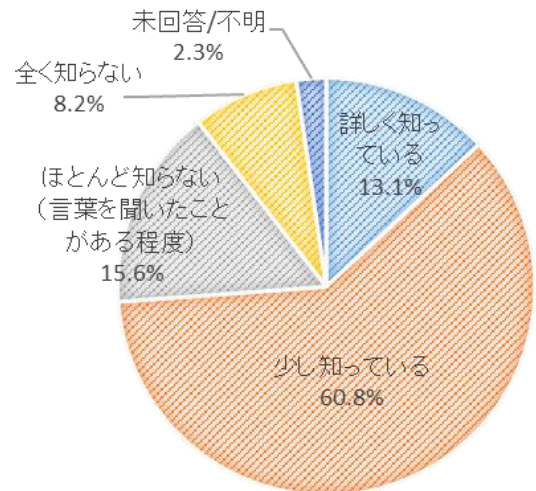
「詳しく知っている」、「少し知っている」の割合は2割程度に留まり、「ほとんど知らない」又は「全く知らない」が約8割と、依然として認知度は低い状況です。



9. 性の多様性

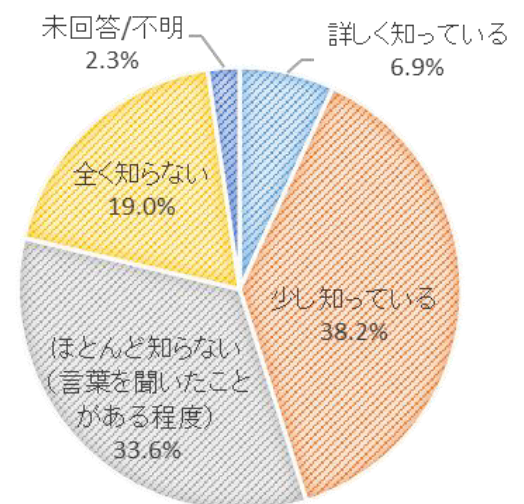
問 18. 「LGBT(エルジービーティー)」の認知度

「詳しく知っている」、「少し知っている」が7割を超えており、認知度は高いと言えます。その一方で、「知らない」は2割程度いるため、今後も継続して周知に取り組む必要があります。



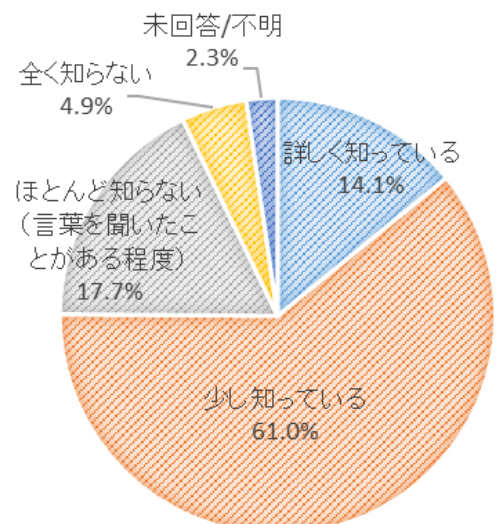
問 19. 「パートナーシップ宣誓制度」の取組みの認知度

セクシュアル・マイノリティ(性的少数者)のカップルなどを、自治体がパートナーとして公的に認め、自治体独自の証明書などを発行する「パートナーシップ宣誓制度」の取り組みについて、「詳しく知っている」、「少し知っている」は4割程度に留まっており、「知らない」が5割を若干上回っている状況です。



問 20. 「ジェンダー」の認知度

生物学的な性別であるセックス(Sex)とは区別された、社会的・文化的につくられた性別である「ジェンダー」について、「詳しく知っている」、「少し知っている」は7割を上回っており、認知度は高くなっています。

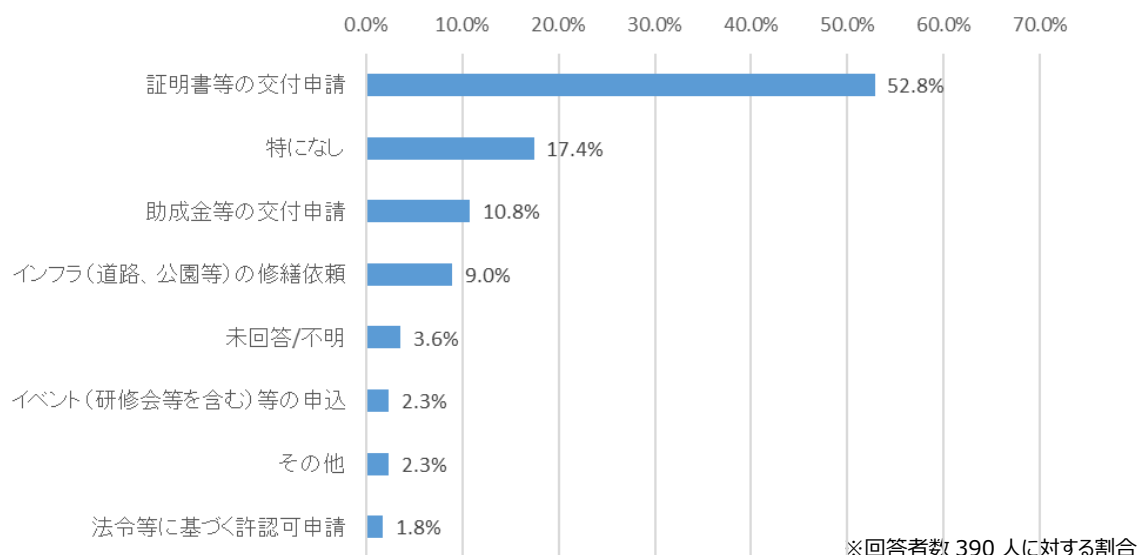


10. デジタル関係

問 21. オンライン申請ができるようになってほしい行政手続き

「証明書等の交付申請」が約5割であり、様々な機会が必要となる証明書を発行するため、都度、役場等まで出向く必要がなくなることに利点を感じる人が多いことがうかがえます。

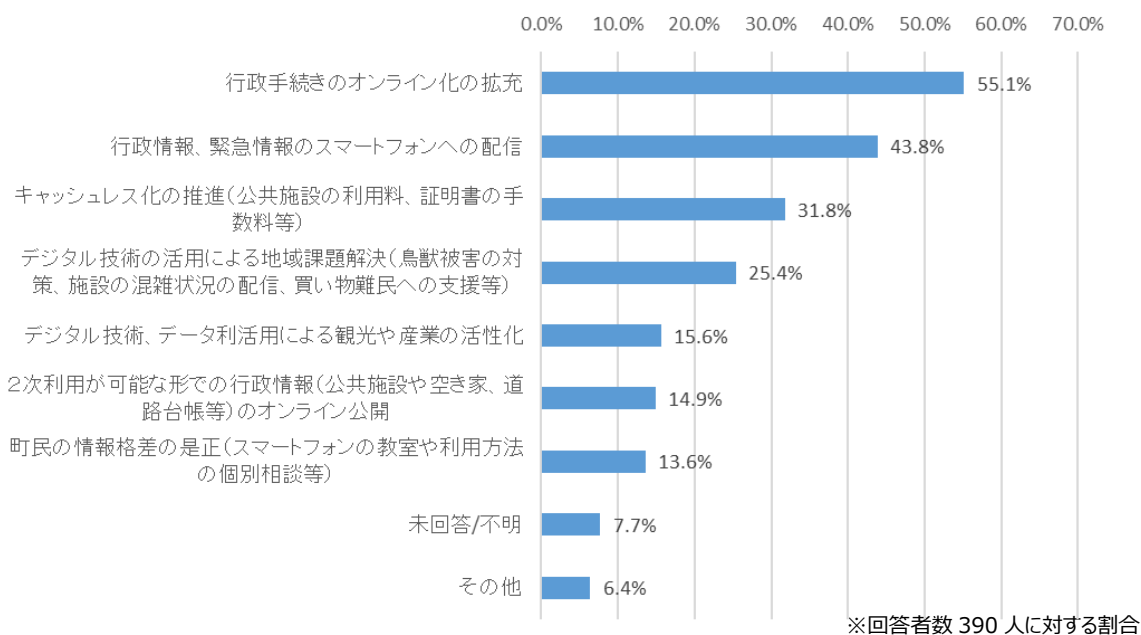
また、「その他」と回答した人には、通信機器を持っていないことや操作方法がわからないといった声がありました。



問 22. 特に力を入れてほしい町のデジタル化への取り組み

「行政手続きのオンライン化の拡充」が約5割であり、前問と同様に役場等まで出向かずに証明書を発行できるようになることを希望していることがうかがえます。

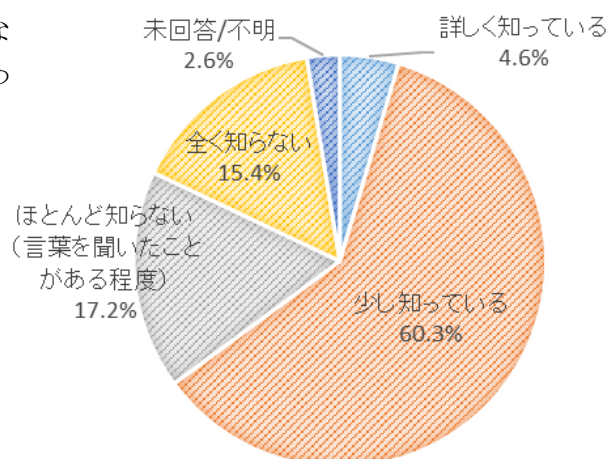
また、町の情報発信としてのデジタル化の強化を挙げる人も多い結果となっています。



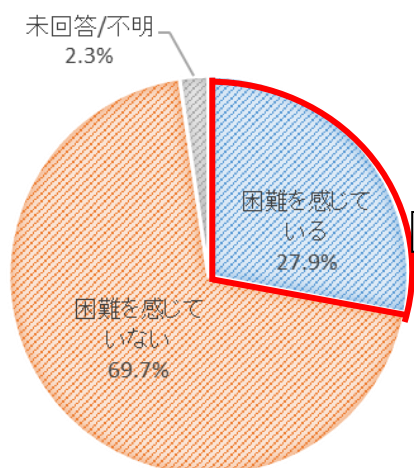
11. その他

問 23. ニ宮ブランドの認知度

「詳しく知っている」、「少し知っている」は7割弱となっており、今後も継続して認知度向上に努める必要があります。



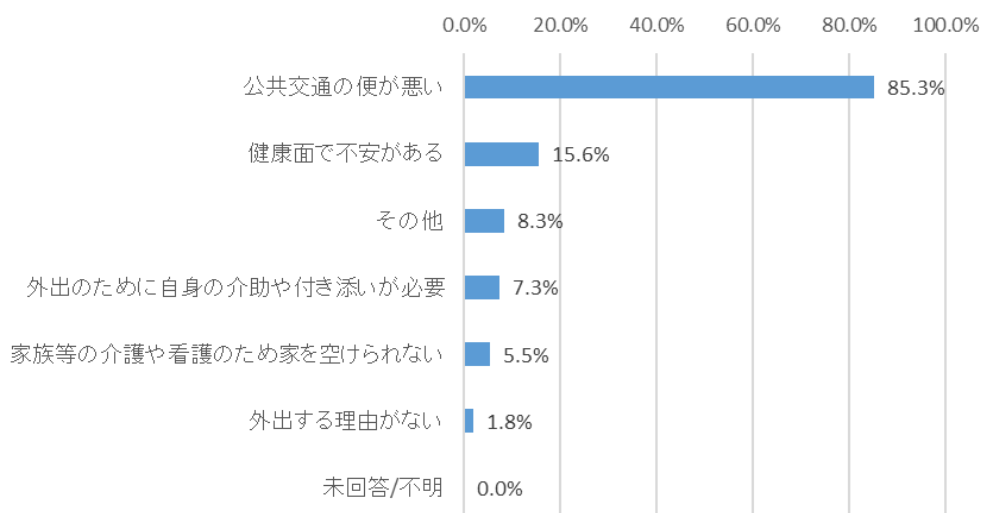
問 24. 外出に困難を感じる人の割合



回答者のうち、3割弱の人が外出することを困難と感じていると回答しており、その主な理由は以下のとおりとなっています。

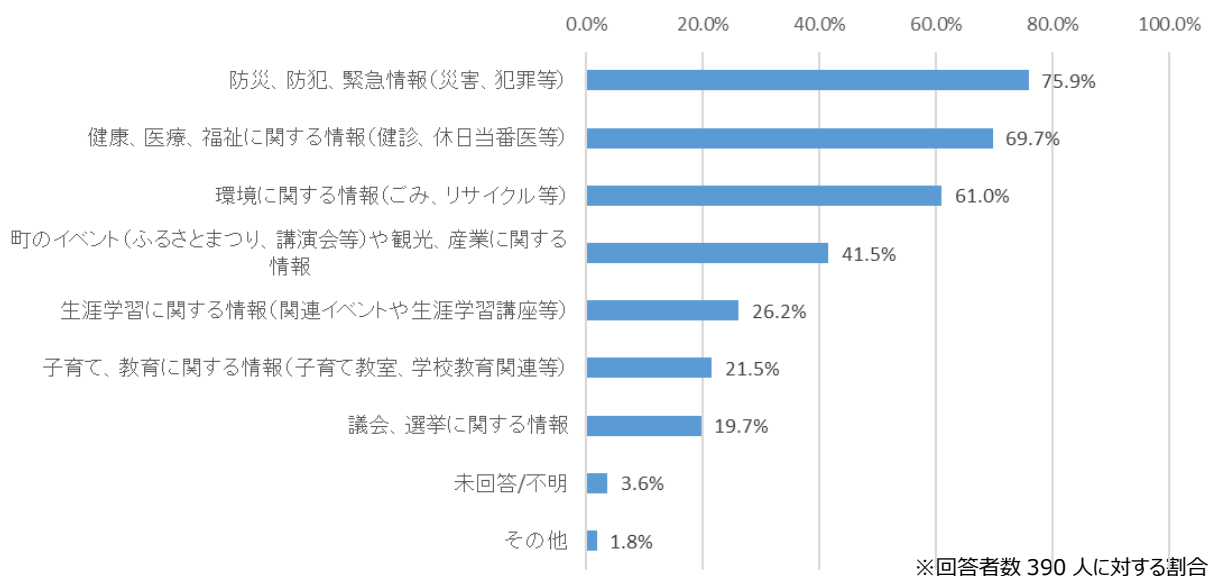
問 25. ※問 24 で「外出に困難を感じる人」回答した人のみ

公共交通の便が悪いと回答した人が8割以上と最も多く、回答者の年代として 50 代以上が多くを占めています。



問 26. 役場から入手したい情報

「防災、防犯、緊急情報」が7割以上と最も多く、近年相次ぐ自然災害の影響もあり、町民の関心は非常に高いことがうかがえます。次いで、「健康、医療、福祉に関する情報」「環境に関する情報」となっています。その他についても「税収およびその用途」「予算等の財務情報」「インフラ改修の計画」などが挙げられました。



問 27. 行政情報の入手手段

「広報にのみや」から入手している人がほとんどで、自身で町 HP から入手している人は3割程度いるものの、SNS 等を利用されている人は少ない状況です。

